

淡い黄色の桜の新品種「仁科蔵王」、和光市役所で植樹祭を開催

2007年10月31日にプレスリリースし、話題を呼んだ新品種のサクラ「仁科蔵王」。理研は、この仁科蔵王の苗木5本を和光市に寄贈し、本日、植樹祭が和光市役所で開催されました。仁科蔵王は、理研仁科加速器研究センター 生物照射チームの阿部知子副チームリーダーらが開発したものです。緑がかった花を咲かせる桜「御衣黄(ぎょいこう)」に理研の加速器「リングサイクロトロン」で原子核を加速した重イオンビームを照射して作り出したもので、淡黄色の花を咲かせます。「仁科」は理研の加速器の父・仁科芳雄博士、「蔵王」は共同研究者のJFC石井農場が山形の育種家であることに由来しています。2001年にノーベル化学賞を受賞した理研の野依良治理事長が命名しました。また、仁科芳雄博士生誕の地である岡山県里庄町にも苗木3本を寄贈し、1月14日に植樹されています。



仁科蔵王（左）と御衣黄



左から菅原満 市議会議員、野木実 和光市長、大熊健司 理研理事、石井重久氏 (JFC 石井農場)

【参考】

- ・2007年10月31日プレスリリース「重イオンビームで世界初のサクラの新品種の作成に成功」
- ・『理研ニュース』11月号（研究最前線）
- ・JFC 石井農場 (<http://www.prunus.net/>)